

プレシャス11月号増刊 10月6日(月)発行・発売 第11巻第14号 平成16年9月13日第三種郵便物認可

PREMIUM'S MANZU BRANDY'S Precious

2014 Autumn プレシャス増刊

こだわる
男の語り
Club for Gents
マガジン

〈別冊付録〉
男と女を魅了する「ブレゲ」の
名品ウォッチ物語

〈別冊付録〉
知的紳士の
「ラルフ ローレン」
名品BOOK

独占インタビュー&フォトセッション!

疾走する、
ポール・ウェラー
という伝説

今、男のコート姿にエレガンスが帰ってきた!

背中で語る!
「ロングコート」
復活宣言

*無難なスーツに、ダンディズムは宿らない

洒落者ならば、
「スリーピース」主義!

着こなしも生き方も、
「無難だから…」じゃ退屈だ。

伊達男のよき生きろ!

キザ 気騒



パリを彩った名店のDNAを受け継ぐ、
新ブランドをいち早く特集！

新しき左岸の伝説 「ルリス」、誕生！

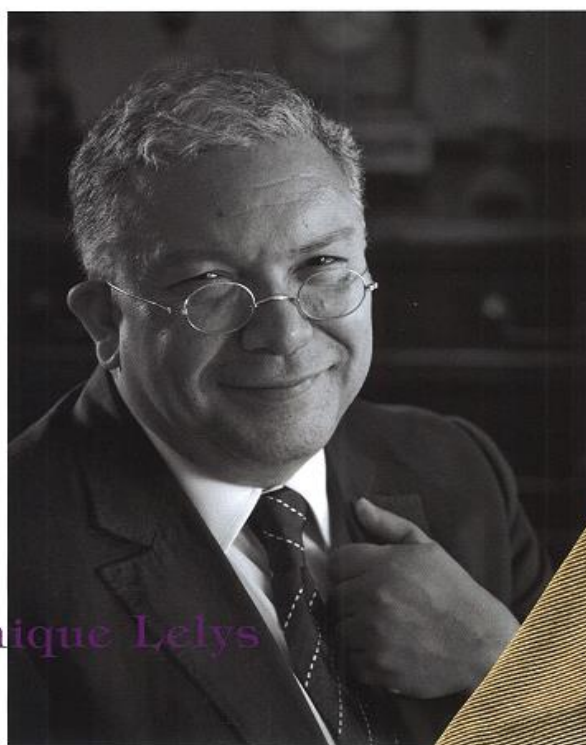
昨年その80年に及ぶ歴史に幕を下ろした、パリの伝説的メンズショップ「アルニス」。しかし伊達男たちよ、歡喜せよ。「アルニス」が護り続けた偉大なる左岸のエスプリは、ドミニク・ルリス氏が率いる「LE LYS (ルリス)」に伝えられているのだから。

撮影 / 小寺浩之 (ノーチラス)、小野祐次 (パリ取材) スタイリスト / 大西陽一 (RESPECT)
パリ取材・文 / 栗野真理子 レイアウト / H.D.O. 構成 / 山下美介 (本誌)
ネクタイすべて ¥22,000 (プレステージ (ルリス))

あの「アルニス」のチーフデザイナーが再始動!

「伝説の継承者」 ドミニク・ルリス氏インタビュー

「アルニス」で長年専属デザイナーとして活躍したドミニク・ルリス氏が、2014年、満を持して自らの名を冠したブランド「ルリス」を立ち上げた。彼が受け継ぎ、そして次世代に伝えていく、そのファッション哲学に迫った。



Dominique Lelys

「LE LYS (ルリス)」のデザイナー。パリの美術学校アカデミー・シャルパンティエ卒業後、名門芸術機関エコール・カモンドで服飾とインテリアを習得。「エルメス」や「ラルフローレン」を経て、1988年に「アルニス」の専属デザイナーに。2013年の閉店をうけて独立。
<http://www.dominique-lelys.fr/>

「アルニス」のセブンフォールド(7つ折り)技法を受け継ぎながらも、本家にはなかった芯地を取り入れることで、より締めやすさを向上。今後「ルリス」のアイコン的存在となっていくネクタイだ。¥22,000 (プレステージ〈ルリス〉)

名門「アルニス」を守った
腕利きデザイナー、飛躍す

パリ左岸の文化人御用達として君臨したメンズショップ「アルニス」で、専属デザイナーとして24年間ブランドを支え続けてきた人物、ドミニク・ルリス氏。そんな彼が2013年の「アルニス」閉店をうけ、新ブランド「ルリス」を立ち上げた。今や伝説と化しつつあるその哲学や製法を継承しつつ、独自のデザイン性を加えたコレクションを発表。パリではひとときその動向が注目されている。彼のアトリエを訪ねた。

「私と「アルニス」は、いわば家族のような関係だったので、いい思い出がたくさんあります。「アルニス」には至高の精神、上質なものをまとうという気風があり、私はそれを受け継ぎ昇華させて、次世代へとつないでいきたいと考えています」と言葉を選びながら語るルリス氏。

サンジェルマン・デ・プレの一角にあるルリス氏のアトリエは、近代建築の建物のなかに、家族代々から譲り受けた18世紀やレストラシオン（王政復古）様式の家具や調度品、自ら収集したアンティークが配され、優美なクラシズムとモダニズムが共存している。ルリス氏にとっては、こうした先祖伝来のクラシックで上質なものに囲まれていることが、創作のインスピレーションになっているという。これは「アルニス」の、古きよき時代を想起させるショップインテリアにも共通していたようだ。「身にまとうものは、洋服や小物も



右/18世紀の優美な椅子やテーブルが配されたアトリエ。上中/「ルリス」の来春用のネクタイコレクション。上左/クラシカルなデザインのレザーブルゾンやジャケットは、「アルニス」を彷彿させる。下右/父親から譲り受けた書類ケースを大切に愛用。下中/17世紀のグルーミングセットは、創作源のひとつ。下左/ウエディングドレスのデザイナーの奥様、ディアヌさんとのお写真を飾って。

含めて、その人の個性やセンスを具現化したもの。パーソナリティそのものなのです。だから、ネクタイ一本といえども手抜きはできない。慎重に選ぶべきなのです」

こうした思いを込めて、美しく構築的にデザインされたのが、ルリスのネクタイコレクションだ。

「アルニス」のアイコン的存在だったネクタイのデザインを任されていた彼は、その代表作「アトリエタイ」の製法を取り入れたセブンフォールド（7つ折り）タイをリリース。ロゴマークは、フランスの国技であるフエニングを取り入れ、フレンチブランドであることを強調した。

「ネクタイは、男性にとって唯一遊べるファッションアイテム。カラーリストでもある私は、色と色の組み合わせを得意とするので、ネクタイはすべて表と裏の色を変え、色の変化が楽しめるように工夫しました」と自信のある笑みを浮かべる。

ネクタイは無地やストライプ、水玉などが中心だが、いずれはステッチが入ったネクタイ（ルリス氏が右ページの写真で巻いているもの）も発表する予定だという。

「今後はトラディションとモダンを融合した、ファンタジーとユーモアのセンスをたたえたものをつくっていきたくですね」と意欲満々のルリス氏。すでに、やわらかな革のブルゾンや極上のウールのジャケットなど、「アルニス」を思い出させる上質な洋服ができてきた。これから「ルリス」が進化させていく、パリのエスプリから目が離せない。



パリの美意識が詰まった
カシミアストール!

上質なカシミアをダブルフェイス使いたし、なんともラグジュアリーなストール。パープルとベージュ(右)、からし色とブラウン(中)、グリーンとネイビー(左)といった日本人では想像もつかないそのカラーコンビネーションは、ルリス氏が「アルニス」で培った、パリの色彩美学の真骨頂といえよう! 200×70cm、各¥190,000(プレステージ/ルリス)

今パリのエスプリを求めるなら、このブランドしかない!
あの色、あのデザインが再び……!!
ルリスの名品カタログ

「アルニス」のDNAを色濃く漂わせつつも、よりモダンで、現代のスタイルに合ったコレクションを展開しているルリス。ここではその全貌をどこよりも早く、お伝えしよう。



締めるほどに美しくなる
こだわりのネクタイ

「アルニス」と同じ極上のシルククレップ生地を使ったセブンフォールドタイは、使うほどに硬さがほぐれ、そのエレガントなドレープ感を増していく。シルクタイも大剣と小剣で異なる色を使うなど、ルリス、ならではの洒落っ気が充滿。右から4本¥22,000・左から2本¥16,000(プレステージ/ルリス)



無骨さを排除した
優美なるレザーブルゾン

アビエイター(飛行機乗り)ジャケットをモチーフにしたレザーブルゾンだが、アメリカンカジュアル的野暮ったさは皆無! 官能的なまでに滑らかなラムのシボ革と、極上の仕立てを融合させることで、フレンチシックとしか言いようのない一着に仕上げているのだ。¥360,000(プレステージ/ルリス)



フレンチクラシックの
香り漂うドレスシャツ

中間色を組み合わせた繊細なストライプや、クラシカルな印象を放つ高めの合襟。ソリッドカラーのドレスシャツも悪くないが、ルリス、のネクタイにはやはりフランス流の色柄、襟型のシャツがよく似合う。ややゆったりとしたサイズ感もこのブランドならではの。各¥65,000(プレステージ/ルリス)

都市生活者にふさわしい
モダンさが魅力!

「アルニス」のデザインを長年手がけてきたドミニク・ルリス氏は、その孤高の色彩美学や最高のクオリティを、最も理解している男のひとりだ。だから常人には思いもつかないようなネクタイの芸術的カラーコーディネートや、うっとりしてしまうようなカシミアの肌触りなど、「アルニス」だけが持っていたバリ左岸の美意識を、完全にわがものにしていく。しかし「ルリス」は、決してわれわれの懐古趣味だけを満たすブランドではない。そのコレクションは、狩猟や乗馬をたしなむ黄金時代の貴族や芸術家ではなく、現代を生きる伊達男たちのためにつくられているのだ。たとえばそのネクタイは大剣の幅を細く、かつ芯地を入れることよって、トレンドのタイトなジャケットにも合わせられる仕立てに。そして極上のレザーブルゾンも余計なディテールを省くことで、ベージュシックなストラップスにも似合う都会向けの一着に……。

2014年のフレンチファッションに違和感なくフィットし、そこにフランス的洒脱さをたっぷり添えてくれる、世界でひとつのブランド「ルリス」。現在はネクタイやストールといった小物がそのコレクションの中心だが、これからはテラードジャケットなどのクロージングも充実させていくとのこと。フレンチファッションのエレガンスを愛するすべての伊達男たちよ! その動向に注視せよ。

ルリス、の色彩美で実現する、 新たなフレンチスタイル

2 Casual

華麗なアビエータースタイル



極上ストール使用で
レザーブルゾンを知的に!

驚くほどラグジュアリーなラム革を使ったA-2タイプのレザーブルゾンは、ただラフに纏こなしてはもったいない。ツイードのジョッパーズパンツにカシミヤストールといったクラシカルなアイテムと合わせて、1930年代のアビエーター(飛行機乗り)スタイルを彷彿させる。エレガントなカジュアルに。ブルゾン ¥360,000・シャツ ¥65,000・ストール ¥190,000(プレスステージ(ルリス)) パンツ ¥31,000(ハバークック代官山本店) 靴 ¥87,000(トレーディングポスト青山本店(クロケット&ジョーンズ))

1 Dress

インテリジェンス漂うジャケットスタイル



優雅極まるVゾーンでバリの芸術家スタイルを華やかなパープルカラーのVゾーンに、上質なラムスエード製のベスト。「ルリス」ならではの粋で知性漂うインナーは、ル・コルビュジェよろしくスタンドカラージャケットにブラッシュアップして、アーティスティックな着こなしを楽しもう。ベスト ¥120,000・シャツ ¥65,000・タイ ¥22,000(プレスステージ(ルリス)) ジャケット ¥153,000(コロネット(マッシュモ アルバ)) パンツ ¥31,000(ビームス 銀座(インコテックス)) 靴 ¥40,000(トレーディングポスト青山本店(クロケット&ジョーンズ))